

# 6 課

5月8日

## アブラハムの子孫



安息日午後 5月1日

### 暗唱聖句

しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです。(1ペトロ2:9、新共同訳)

しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。(1ペテロ2:9、口語訳)

### 今週の聖句

エゼキエル16:8、申命記28:1、15、エレミヤ11:8、創世記6:5、ヨハネ10:27、28、ガラテヤ3:26~29、ローマ4:16、17

### 今週のテーマ

「ある小さな町の宝石店の窓辺に置かれた時計が9時15分前で止まりました。この店の前を行き交う多くの人々がこの時計を頼りにしていました。この朝、仕事に向かう人々はまだ9時15分前であると思いました。登校中の子どもたちはまだ道草を食う時間がたっぷりあると思いました。その朝、宝石店の小さな時計がとまっていたために、たくさんの人々が遅刻してしまいました」(C・L・パドック『神の時』244ページ、英文)。

主はイスラエルを、3つの大陸(アフリカ、アジア、ヨーロッパ)をつなぐ架け橋として戦略的に「国々の中」に置かれました(エゼ5:5)。しかしながらイスラエルは、宝石店の時計のように止まってしまったのでした。しかし、この時計は完全に故障したのではありませんでした。その時代も、そして今日も、神様は忠実な残りの民をお持ちでした。今週私たちは、各時代の真のイスラエルの役割と、そのアイデンティティーに焦点を当てて学びます。

### 今週のポイント

神はイスラエルと、どんな契約の約束を結ばれましたか。その約束にはどんな条件が伴いましたか。

「あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた」(申7:6)。

主が、主の地上の特別な代表者としてヘブライ人をお選びになったことに疑問の余地はありません。上の聖句の「宝の」と訳されている言葉は、原語では「セギュラー」という語で、「正しく評価する」あるいは「特別な宝」という意味です。覚えておくべき重要なことは、この選びは完全に神の側の行為であり、主の恵みの表れであったという点です。民の側には、この恵みに値するものは何もなかったということです。恵みとは受けるに値しない者に与えられるものだからです。

**問1 エゼキエル 16:8 を読んでください。神がなぜイスラエルを選んだのかを理解する助けになるでしょう。**

「イスラエルはなぜヤハウェによって選ばれたのか。それは不可解である。彼らは偉大な文化も威信もない小さな民であった。彼らはこのような選びにふさわしい特別な資質を持ってはいなかった。この選択はただ神の側の行為であった……。その最終的な理由は天の愛の神秘による選びであるというほかない。しかしその事実、神がイスラエルを愛し、彼らを選んだということであり、その事実こそが、父祖たちに与えられたこの約束を名誉あるものとするのである……。イスラエルは、彼らに対するヤハウェの愛によって選ばれたのである。彼らはヤハウェの力によってエジプトの奴隷の状態から救われたのである」(J・A・トンプソン『申命記』130、131ページ、英文)。

天の計画によれば、イスラエルは王の系統を引く祭司となるはずでした。彼らは邪悪な世界にあって、道徳的、霊的な王となり、罪の世に打ち勝つはずでした〔黙20:6〕。彼らは祭司として、祈りと賛美と犠牲によって主に近く引き寄せられるはずでした。彼らは神と異邦人の間の仲介者として、教え、戒め、予言するはずでした。そして聖く生きるための模範、すなわち天から召されて真の信心とは何かを示す者となるはずでした。

今日の聖句で主が言われた、「地の面にいるすべての民の中からあなたを選び」という部分に注目してください。この聖句を今日私たちの教会にどのように当てはめて考えるべきでしょうか。

神の民、イスラエルに土地が与えられるとの約束は、初めにアブラハムに与えられ、次にイサクとヤコブに繰り返されました。ヨセフの臨終の言葉でもこの約束が繰り返されました (創 50 : 24)。しかしながら、神がアブラハムに告げられてから、アブラハムの子孫がその地を所有するまでに、「400年」が過ぎるのです (同 15 : 13, 16)。この約束の成就是モーセとヨシュアの時代に始まりました。モーセは神がお命じになった言葉を繰り返しました。「あなたたちは行って、主が先祖アブラハム、イサク、ヤコブに、彼らとその子孫に与えると誓われた土地を取りなさい」 (申 1 : 8)。

**問 2 申命記 28 : 1、15 は何を意味しますか。約束の土地は契約の一部として与えられ、契約は義務を含みます。イスラエルはどのような義務を負っていましたか。**

28章の最初の部分は、彼らが神の意思に従うなら得るであろう祝福についてまとめています。他の部分は、彼らが従わなかったときに下る呪いについて記しています。これらの呪いは「そのほとんどが、単純に、罪に働く機会を与え、その結果としてもたらされるものである……。『自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取る』るのである (ガラ 6 : 8)。水が水平になるまで流れ続けるように、ゼンマイをすべて巻き戻すまで動き続ける時計のように、実を結ぶまで成長し続ける木のように、罪は水平を求め、流れる道を求め、結ぶべき実を求め、そして『それらの行き着くところは、死にほかならない』のである (ロマ 6 : 21)」 (H・D・M・スペンス／ジョセフ・S・エクセル編『説教注解：申命記』3巻439ページ、英文)。

それらはすべて、土地に関する約束であったにもかかわらず、無条件の約束ではありませんでした。それらは契約の一部として与えられるのであり、イスラエルはこの契約において彼らの果たすべき分がありました。もし果たさなければ、契約は無効になるのです。主は、もし彼らが従わなければ、その土地は彼らから取り上げられることを明白に、繰り返し宣言されました。レビ記 26 : 27～33 を読んでください。これ以上明確な表現があるでしょうか。

キリスト者として、私たちはやがて天の約束の地を受け、守り、地上が新しくされるのを待ち望んでいます。私たちは一度そこに入るなら、二度とそれを失うことはありません (ダニ 7 : 18)。そこに入る条件は、特に信仰のみによる義の文脈から、なんだと思いますか。

「しかし、彼らはわたしに耳を傾けず、おのおのその悪い心のかたくなさのままに歩んだ。今、わたしは、この契約の言葉をことごとく彼らの上に臨ませる。それを行うことを命じたが、彼らが行わなかったからだ」(エレ11:8)。

上の聖句を見てください。主は、「この契約の言葉をことごとく彼らの上に臨ませる」と言われます。しかし、ここでは悪い意味で言っておられるのです。私たちは通常、契約とは私たちに良いものをもたらすものと考えがちですが、契約には裏面もあります。

**問3 上の聖句を創世記6:5の洪水前の世界と比べてください。共通点は何か。私たちに、思いを制御することはどのように重要でしょうか。**

不幸にして、イスラエル国家の歴史は、そのほとんどが、背信、天の裁き、悔い改め、そしてしばらくの服従の時代の繰り返しでした。ダビデとソロモンの時代に、ほんの短い期間、約束された領土のすべての範囲を統治したにすぎません。

イスラエルの背信について、エレミヤは次のように述べています。「もし人がその妻を出し／彼女が彼のもとを去って／他の男のものとなれば／前の夫は彼女のもとに戻るだろうか。その地は汚れてしまうではないか。お前は多くの男と淫行にふけたのに／わたしに戻ろうと言うのかと／主は言われる。……だが、妻が夫を欺くように／イスラエルの家よ、お前はわたしを欺いたと／主は言われる」(エレ3:1、20)。

この聖句は先に示されたことを思い出させます。神が私たちと結ぶことをお望みになる契約とは、単に自分たちの利益だけを求めて交わされるビジネスの世界の冷たい法的な協定のようなものではありません。主ご自身が聖書の中にたとえておられるように、神との契約関係は献身であり、誠実かつ神聖な結婚の誓いのようなものです。

重要なことは、イスラエルの背信の根源は不服従にあったのではなく、壊れた主との個人的関係にあったということです。壊れた関係が不服従を招き、不服従がついには罰を招いたのです。

「どうすれば主との深い愛の関係を築くことができますか」と尋ねられたら、あなたはどのように答えますか。

問4 イスラエルが背信、天の裁き、悔い改めの歴史を繰り返したにもかかわらず、次の聖句にはどんな希望が描かれていますか。

- (1) イザヤ4:3
- (2) マラキ3:23、24(口語訳4:5、6)
- (3) ゼファニヤ3:12、13

神の古代イスラエルに対する計画が、不服従によって損なわれたとはいえ、それは完全に無に帰したものではありませんでした。雑草の中であって成長する花があるように、多くの旧約の預言者たちは、忠実な残りの者たちについて語っています。神はそれらの花を集めて美しいブーケをお作りになったのです。

神が忠実な残りの者をお備えになり、守られた理由は、イスラエル全体に対するものと同じでした。すなわち、「彼らはわたしの栄光を国々に伝える」(イザ66:19) 道具として用いるために神に召し出されたのです。この意味において、「万軍の主なる王を礼拝」(ゼカ14:16) する他の民も忠実な者に加えられるのでした。このように、神の選民の中にも背教が入りこみ、状況がどんなに悪くなってもなお、神は常に、神の召しを守り、選びに固く立つひとかたまりの忠実な者たちを持っておられるのです(2ペト1:10)。言い換えれば、国家全体が過ちに陥ろうとも、なお彼らのできる最善を尽くし、契約の彼らの分を果たし続ける者たちがいたのです(王上19:14~18参照)。そして、おそらく、彼らは(約束の地からの捕囚のように)他の人々と共に苦しみますが、最後のかつ究極的な約束、すなわち永遠の命は彼らのものとなるでしょう。

問5 ヨハネ10:27、28でイエスはなんと言っておられますか。彼の言葉から古代イスラエルの背信にも適用できる約束をあげてみましょう。これらのみ言葉は、どのように忠実な残りの者たちの存在を説明していますか。

数年前のこと、ある若い女性がすっかり信仰を捨てました。その主な理由は彼女の教会にある罪、背信、そして偽善に失望したことによるものでした。信仰を捨てた言い訳として、「あんな人たちはクリスチャンではありません」と彼女は言いました。今日の学びの原則に照らして考えるとき、なぜ彼女の言い訳はあまりにも説得力のないものと言えるのでしょうか。

旧約聖書は、主が霊的イスラエルをお造りになる時を待ち望んでいました。それはユダヤ人によらず異邦人によらず、世界に福音を伝える働きを進める忠実な信じる者たちの集まりを意味します。

問6 ガラテヤ3：26～29を読んで、下の問いに教えてください。

- (1) 29節でパウロはどんな約束について語っていますか。
- (2) これらの約束の相続人となるために必要な要素は何ですか(26節)。
- (3) なぜパウロは性別、国籍、社会的地位の違いを打ち破っているのでしょうか。
- (4) 「キリスト・イエスにおいて一つ」とはどういう意味でしょうか。
- (5) ローマ4：16、17は、ガラテヤ3：26～29を理解する助けになりますか。

アブラハムの子孫として、キリストは特別な意味において、契約の約束の相続人となりました。バプテスマによって私たちはキリストの親族になり、キリストを通してアブラハムの約束に連なることができるのです。こうして、神がアブラハムに約束されたことはすべて、キリストのうちに見いだされ、国籍によらず、人種によらず、性別によらず、神が信仰を通して私たちに与えてくださる恵みによって、この約束は私たちのものとなるのです。

「アブラハムと彼の子孫への賜物は、カナン之地だけでなく、地球全体を含むものであった。『なぜなら、世界を相続させるとの約束が、アブラハムとその子孫とに対してなされたのは、律法によるのではなく、信仰の義によるからである』と使徒は言っている(ロマ4：13)。アブラハムに対してなされた約束は、キリストによって成就されることを、聖書は明らかにしている。キリストにある者はみな、『アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである』。すなわち、罪ののろいの取り去られた地の『朽ちず汚れず、しほむことのない資産を受け継ぐ』相続人である(ガラ3：29、1ペト1：4) (『希望への光』83、84ページ、『人類のあけぼの』上巻179ページ)。この約束は聖徒たちが新しい地において、永遠から永遠にキリストと共に生きる時、文字通り成就するでしょう(ダニ7：27)。



参考資料として、『国と指導者』第2章「エルサレム神殿の建設」、第31章「諸国民の希望」、第59章「理想のイスラエル」を読みましょう。

「神は国籍、人種、または階級などの差別をお認めにならない。彼はすべての人類の創造主であられるのである。すべての人々は、創造によって1つの家族である。そしてすべての人々は、贖罪によって1つなのである。すべての魂が自由に神に近づくことができるように、キリストはすべての差別の壁を取り除き、神殿のすべての部屋を広く開けるために来られた。彼の愛は広く深く十分に満ちあふれていて、どんなところにも浸透してゆくのである。それは、サタンの影響を受けてその欺瞞に惑わされた人々を引き上げて、約束の虹に囲まれている神のみ座近くに彼らを置くのである。キリストにあってはユダヤ人もなければギリシア人もなく、奴隷も自由人もないのである」(『希望への光』528ページ、『国と指導者』上巻337、338ページ)。

1ペトロ2:9、10を読んで、ペトロが教会に適用した4つの称号を見つけてください。これらの称号は、神と教会の関係について何を強調していますか。

### 話し合いのための質問

- ① 神はイスラエルを聖なる国民として世から分かたれましたが、同時に世にあって救いの真理を分かち合いました。それは今日の教会においても同じです。世にあって福音を分かち合い、一方で世から分かたれることは可能でしょうか。イスラエルの経験とイエスの模範は、この問いに答えるためにどのように助けとなりますか。
- ② 神は常に古代イスラエルの中に残りの者たちを持っておいででした。エリヤの時代に、彼と共にいた残りの者たちのことを考えてください(王上19章、特に18節参照)。なぜしばしば、自分の教会の信仰から離れた人々の中で神に真実であることは、世にあってそうあることよりも難しいのですか。

### まとめ

神の真のイスラエルは、(十字架の前、後によらず)信仰のイスラエルです。それは主との霊的な関係に生きる人々です。そのような主の代表者たちは、主の恵みの福音を世に伝えるために生きるのです。